



## 「節分@オーストラリア」

「♪鬼は内、福は外♪ 鳥さんたちが喜ぶね、このお豆さんが食べれて、ねえママ！」

<投稿者>お姫様かバレリーナ (代筆:母) 4歳 女の子



## 「Being a student in Australia」

As everybody knows, Australian education is respected worldwide, the most important reason being the high quality of education and research. After one year of studying in an Australian university, I am happy with my decision.

The Australian education system promotes innovative, creative and independent thinking in its students. Personally during my studies I have felt the difference in teaching methods between my country and Australia. In my country, Peru, the students spend a lot of hours in the classrooms. In Australia, we spend only some hours a week with the lecturers, and the rest of the time we have to study by ourselves and be able to manage our time in order to avoid low grades or to fail a unit. At the beginning I thought that few hours were not enough, but the lecturers were able to cover many topics, and after that we had to study at least for 13 hours each week.

Australian universities are multicultural. There are students and even lecturers from different countries and obviously with different English accents. For me, at the beginning and even now sometimes it is difficult to understand the different accents. It is funny and at the same time stressful, because often it is difficult to follow the conversations between your classmates, or maybe you can agree or disagree with some opinions that you could not understand very well. On the other hand, you will be able to understand the different kinds of English that could be useful at work.

As international students we are allowed to work. It is not difficult to get a part-time job. Nevertheless, it is difficult to get a job in the area that you are studying. Some companies give an opportunity to the students to get a training or work experience after the graduation, but most of them are directed for local or permanent resident students. So, that is a disadvantage for the international students. However, the opportunity always exists, and

it is important to be optimistic.

Despite that studying in Australia is expensive, the university has all the services that students need. For example, 24 hour-library service, health attention, career services, banks, bookshops, and so on. Moreover, lecturers are always happy to help you during their consultation times. However, in my opinion the textbooks are so expensive, but it is necessary to buy them because the editions change every semester.

Being a student in Australia has given me a lot of satisfaction, and a lot of knowledge. I feel that I have developed my study and personal skills. Although I miss my family and my country, I think that after finishing my studies, I will get my dream job.

<投稿者> Jessica Caballero 27歳 女性



## 「気をつけろ！」

観光でパースに来て3ヶ月が経ったけど、ドルだといまいち考えられないから、1ドル=100円計算で書かせてもらおうよ。

パースのこの景気は異常だな。日本のバブルの時のようだけど、ここには資源がある。泡ではなく、実存するものがある。なので、そう簡単に吹き飛ぶ泡とも考えられないし。しかし、不動産屋のチラシ広告に並ぶ物件が、どれも1億円以上ってのも、おかしいだろう。2千万円とか、3千万円とかの物件の中に高額物件として1つ、2つ紹介されているならまだしも、ほとんどが1億円以上って、どういうことだ？

晩飯を外に食いに行つて、1人5千円以上っていうのも、異常だろ。それだけの価値のあるものを食わせるんだつたらまだしも、日本だったらその程度のもは千円そこそこで食べるぞ！おまけにビール一杯、千円って、どんなビールだ？！コーラも一本、4百円！もう勘弁してくれよ。

着る物も高いな。こう言っちゃ悪いけど、質だつてたかが知れてるんだろう。なのにTシャツが5千円で、ジーパン1本が3万円。Tシャツだつて、柄はローカル・デザイナーのものらしいけど、Tシャツそのものは中国製だな。ジーパンだつて、日本じゃ7、8千円で売ってるものが、3倍だから。ほんと、驚くぜ！

でもよ、オーストラリア人はそれが当たり前で、みんな普通に買つたり、食つたり、着たりしている。そう考えると、『恐るべし、オージー』だろ！中国人が日本の水源地を買いあさってるけど、のんきにしていると、オーストラリア人にも北海道のニセコとか、長野の白馬を買われちゃうぞ！

<投稿者>リタイア人生 48歳 男性



## 「Candy」

大学を卒業してワーキングホリデー (WH) でオーストラリアへ。その後、日本に一時帰国しましたが、どうしても、またオーストラリアに戻りたくて、学生ビザで再入国。そこから、かれこれ7年。そしてこの間、念願の永住権が取れました。最初のWHが2004年だったので、トータル約9年かけて、夢の永住を獲得しました。

でも最近、“これで良かったのかな？”と疑問に感じています。とにかく、がむしゃらに約8年間 (WH後)、オーストラリアに住むことだけしか考えずにきました。お金も時間も全て、永住権のためでした。

この間、テレビを観ていたら、映画の「Candy」がやっていました。この映画は、自分がWHを終えて日本に帰り、オーストラリアに戻ることにしか考えていなかった時、オーストラリアについての情報をあさっていた時期に出会ったものです。主演は、今は亡き Heath Ledger で、パース生まれのパース育ちです。アカデミー助演男優賞も取っていて、オーストラリアを代表するハリウッド俳優です。その Heath Ledger の相手役は Abbie Cornish で、2011年には歌手の Madonna が監督を手がけた話題作「W.E.」で主演をはるなど、こちらもオーストラリアを代表する女優です。出演していた他の俳優も多分、ほとんどがオーストラリア人で、撮影場所もオーストラリアだと思います。とにかく、出てくる町並みや雰囲気、言葉のアクセントとかが、当時は懐かしくて、何回も観ていました。そして、「絶対にオーストラリアに戻る！」つて思いながら、その映画を観ていました。

その映画がこの間、こっちのTVでやっていて、久しぶりに観て、また懐かしく思っていました。しかし、最後のシーンの後、エンドロールにさし変わった時、そのラストシーンが頭に引っかかって、何とも言えない後味の悪さを感じました。日本で観ていた時は、すんなり飲み込めたと思っていたのに、今回観た時は入ってこなかったのです。Abbie Cornish が縁りを戻そうとするけど、Heath Ledger が断るといったシーンですが、その後味の悪さは、その時の Heath Ledger のせりふが頭に入って来なかったのも1つの理由でした。

自分の中で英語はこっちに帰って来てから7年以上も使い続けているし、ある程度、自然に耳に入ってくるようになってきているし、大好きな映画で何度も観ているのに、その一部が耳に入つてこなかったのにショックを受けたんだと思います。そこで、悔しいのでインターネットでそのせりふを調べたら、見つけました。

There's no going back. If you're given a reprieve, I think it's good to remember just how thin it is.

でも、このせりふを活字で見ても、うまく訳せないし、やっぱ

り頭に入ってきません。例えば、もし、同じような状況に自分がいて、こんなことを言われても、「はあ？」としか言えないだろうなと思います。オージーの彼女がいたとして、もし告白したり、縁りを戻そうとした時に、相手にこんなことを言われても、全く理解できないだろうし、「ぼかあ〜ん」としている自分が想像できて、かなりかつこ悪いだろうなと思います。

さて、あの時はオーストラリアの永住権を取ることにしか頭になかったけど、英語もこれからさらに上手になるとは思えないし、なったとしても、言葉面だけでは本当の意味も汲み取れないだろうなと思います。かといって、オーストラリア文化を深く学んで、その言葉を理解しよう、なんて長い道のりをたどる勇気もありません。永住権を取ってしまったから思うのかもしれないけど、自分の今までの8年はこれで良かったのか、とつくづく感じている今日この頃です。

<投稿者>日豪男児 36歳 男性



## 「オーストラリア、ありがとうございました。」

多くの友人が、日本へ帰りました。リタイアメント・ビザがなくなってしまった今、これからお友だちが増えるとも思えません。

オーストラリアのお墓に入るつもりはありませんし、年齢とともに身体のことを日々、気になりだしています。当然のこと、体力が落ちているのも自覚しています。

好きで来たオーストラリアですが、どこかで見切りをつけなければならぬでしょう。主人は、ゴルフをまだまだ楽しんでますし、居たいのですが、私はもうそろそろかなと思ってます。主人は来年で80歳になりますし、私は日本にいる孫たちとも、もっと頻繁に会いたいですし。

時代の流れは面白いものです。その時代の流れに運良くのれて、こちらで生活することができました。決して余裕があったわけはありません。そういう時代だったので、偶然にも資金が入ってきて、海外移住ができました。本当にラッキーでした。

日本の東京では考えられない、どこまでも見渡せる、透き通った青空とエメラルドグリーン海、真っ白な砂浜に、心地良い潮の香り。大らかなオーストラリア人や大陸文化との出会い。60歳からの英語習得や、新しい習い事への挑戦。いろいろと楽しく有意義な時間を過ごし、経験させて頂きました。

オーストラリアでの生活の思い出にと思い、投稿させて頂きました。

<投稿者>田中 72歳 女性